

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 古木会

## 令和3年度事業報告書

社会福祉法人古木会  
理事長 木下勝之

令和3年度も、新型コロナウイルス予防対策に追われた1年でした。幸いなことに、当法人の全事業所での利用者の感染はありませんでした。職員の感染はありましたが、家族からの感染や濃厚接触者で感染が判明する前からたまたま勤務しておらず、大きな影響がなかったという状況でした。

令和3年度の法人全体の経過は、下記のとおりです。

### 施設系

成城アルテンハイムでは、事業計画において介護職員の充足を第一目標として掲げてきましたが、新たな職員採用ができず今年度3月までには、逆に退職者が1名発生し、4年度の課題を残したままとなっています。また、看護師の退職も3名ありましたが、現在まで採用ができておらず早急な採用を急いでいるところです。

収支については、近隣施設でコロナウイルスのクラスター感染がありその影響が心配されましたが、ショートステイへの影響は最小限に抑えられています。

グループホームでは、新型コロナ感染症に関わらず入所者獲得がすすまず、「ふるさと」及び「かつらの木」では空床が続き経営を大きく圧迫しています。「ふるさと」では満床になったのは1月のみで、ずっと空床が続いています。また、「かつらの木」も同様で、2床から4床の空床が続き開設以来これまでにない減収となっています。いずれの事業所も、利用者獲得のための営業に力を入れる必要があります。

令和3年4月から新たに世田谷区から委託された「烏山の高齢者一時支援施設」については、人手不足は解消していないもののなんとか1年を無事乗り越えられました。

### 通所系サービス

祖師谷ケアセンターについては、これまでにない収入増がありました。センター職員の活躍はもとより、併設している祖師谷介護保険サービスのケアマネによる営業努力によるものが大きいと考えます。令和4年度は、ケアマネジャーの増員もあり、今後の経営はやや安定できると期待しています。

鎌田ケアセンターは、鎌田区民センターの大規模改修に伴い、世田谷区施設の馬事公苑での事業運営となりました。引っ越しに伴い、利用者の送迎ルート的大幅な変更や職員の通勤方法の変更、利用者の昼食の提供方法の変更など

様々な問題があり苦勞をした1年でした。この条件での新規利用者獲得は困難でしたが、現在利用されている利用者の減少は最小限に抑えられ、3月末に無事鎌田での営業が再開されています。浴室が大きく変更され現在よりも入浴がスムーズになることで、今後の利用者増が期待できそうです。

#### 在宅系サービス

居宅支援事業については、中町介護保険サービス以外黒字化できています。職員体制が整わず利用者獲得が困難だった中町介護保険サービスは、職員体制も3人となり、令和4年度は安定した事業継続ができるようにしました。また、成城、祖師谷、鎌田介護保険サービスも新規採用ができ、法人内の各事業所の営業活動に大きく貢献できる体制を整えることができました。

訪問看護ステーションについては、2箇所とも収支は黒字報告ができました。しかし、中町訪問看護ステーションは離職者の後の採用が困難な状況が現在も続いています。令和4年4月に一人採用が決まっていますが、まだまだ人手不足は続いています。成城訪問看護ステーション同様、療法士の採用も継続し体制の充実が必要です。

訪問介護ステーションも、人手不足は各事業所同様です。令和4年2月に常勤職員1名採用できましたが、まだまだ採用を継続する必要があります。職員不足により、大きく収入増にはつながりませんでした。

#### 地域包括支援センター

4カ所のあんしんすこやかセンターについては、職員の変動はありましたが、大きな問題なく運営できました。第三者による評価も平均より高い評価をいただいています。

#### 社会貢献事業

社会福祉法人の使命としての地域貢献事業については、昨年同様様々な計画が新型コロナウイルス感染症予防のため十分な活動ができませんでした。令和3年度に行った事業は、下記のとおりです。

- ・「世田谷区社会福祉法人地域公益活動協議会」と連携して世田谷区内の対象の方々にお米や食品を配布し、食の支援を実施しました。(12/6 12/7)
- ・梅丘あんすこと法人本部との共催による「梅カフェ」は、3回(6/22 10/26 2/22)実施しました。
- ・ひとり親世帯への支援として、食品等の無料配布をしているNPO法人と協力し、烏山グループホームの施設の一部を提供し、配布作業の支援をしました。

成城アルテンハイムは昭和 59 年 4 月に開設されてから 35 年以上が経過し、建物の老朽化が目立ってきました。これまでも建て替えを優先して代替え地を探してましたが、世田谷区内での用地取得は困難で現在もできていません。しかし、建物の修繕は必要です。前回の理事会で承認をいただきましたように東京都と世田谷区に対し補助金申請をしています。世田谷区からはすでに交付補助見込書の通知があり、令和 4 年 6 月までに東京都の交付の可否が決まる予定です。

(1) 施設運営面 (実績)

1 利用者実績

① 長期利用者 (延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
令和2年度	1,513	1,528	1,499	1,550	1,578	1,552	
令和3年度	1,468	1,516	1,499	1,637	1,654	1,560	
増減	-45	-12	0	+87	+76	+8	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計 (稼働率)
令和2年度	1,544	1,471	1,571	1,556	1,430	1,570	18,362(93.2%)
令和3年度	1,565	1,519	1,570	1,570	1,435	1,592	18,585(94.3%)
増減	+21	+48	-1	+14	+5	+22	+223

② 短期入所生活介護利用者 (延利用人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
令和2年度	201	174	176	174	253	225	
令和3年度	205	230	212	138	156	148	
増減	+5	+56	+36	+38	-97	-77	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計 (稼働率)
令和2年度	226	198	172	215	181	189	2,384(81.6%)
令和3年度	140	104	150	169	151	158	1,961(67.2%)
増減	-86	-94	-22	-46	-30	-31	-423

2 運営面

令和3年度の実績は、令和2年度と比較し、特養については、延べ223人増加  
ショートステイは延べ人数423人減少の結果となった。

ショートステイについては、世田谷区においても需要(ニーズ)が問われている  
ようだが、令和3年8月頃を機に前年度利用数と比較しても減少傾向が続いている。

特養待機者のショートステイ利用から、特養入所への移行によることも一因では  
あるが、コロナ等による入所調整をしたわけでもなく、緊急ショートも受け入れも  
行っているものの、リピーター(固定客)数が低い数で推移している。ショートステ  
イ8床を高い利用率を確保することは非常に困難という現実も伺える1年であっ

た。

特養においては、前年度より増加はしたものの新規入所者が短期間で退所される状況も顕著であった。令和3年度内入退所は各々17名、そのうち9名が3年度内に主に逝去による退所をされている。それだけ特養待機者の障害や疾病の重度化や虚弱化が進行している傾向もみられている。(下表参照)

その中で前年度より増加したことは安堵するところである。

令和3年度	R3/4/1~R4/3/31	同一利用者が3年度内に入退所された数
退所者数	17名	
入所者数	17名	17名中9名 (平均利用日数 103日)

但し、特養についても世田谷区からの特養希望者リストの申請数は、世田谷区内特養全般減少傾向であり、当施設で言えば当施設の申込みはリスト表ではすでに40名程度までに減少している状態である。希望者にとっては入所しやすくなってきているというメリットはあるが、施設からすれば待機者減少＝施設間で顧客獲得競争をしていかなければならないこと、また今年度は世田谷区の入所指針に従い世田谷区内に住民票のある希望者の入所を対象としていたが、今後は成城という西方に狛江、調布市など隣接市もある地域性から、区外の受入枠を設定して特養の受入も拡大していく事、伴いショートステイの受入についても狛江・調布市の居宅支援事業所への広報も含め拡大しなければならないという課題が浮き彫りになった1年でもあった。

### 3 新型コロナウイルス関連

#### 【感染報告】

令和3年度、令和3年8月18日・19日に介護職員1名ずつのコロナ陽性者が発生したが、世田谷区高齢福祉部高齢福祉課事業担当への報告→世田谷保健所へ社会的PCR検査依頼し、8月25日職員・利用者全員PCR検査実施。ショートステイ退所者に対しては、世田谷区検査センター指定の受検場所で2名PCR検査受検し、全員陰性が確認された。

その後、令和4年2月に介護職員1名家族含めコロナ陽性が確認されたが、職員の抗原検査を実施し、陰性確認し、利用者等への感染にまで至らず、年度を通じ施設内での感染発症はなく経過した。

これは、職員の感染意識と実践とともに、東京都の補助金で各居室に設置した陰圧器の効果も要因と考えられる。

#### 【感染対策】

##### 《新型コロナワクチン》

職員及び利用者について接種後の副反応(発熱や患部等の痛み)による体調不良を考慮し、ケアに支障の無いように2日間に分けて第1回目5月、第2

回目6月、第3回目は12月下旬に世田谷区内高齢者施設では先駆けとして接種を実施する。

#### 《感染対策》

- 面会中止      ○ボランティア等の入館中止      ○クラブ活動の休止
- 世田谷区高齢者及び夏季期間の熱中症対策のお休み処の休止
- 高齢者サークルへの施設利用の休止
- 感染予防標準マニュアルの実施
- 成城大学教員資格取得のための介護体験事業の休止
- 居室内、陰圧装置の常時稼働

等を3年度内も継続している。コロナウイルスの終息化が見えない中で利用者及び家族にはデメリットの部分もあるが施設内でクラスター発生や感染による重篤化等を予防するためにはやむを得ない対応ではあった。

## 4 補助金関係

東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金 交付

14,638,000 円

【内訳	小規模施設加算	9,312,000円
	評価加算	4,726,000円
	サービス評価加算	600,000円

※第三者評価： 日本ライフサポーター協会による受審

東京都・世田谷区、大規模修繕補助金 申請

修繕・改修箇所

- 電気キューピクル
- 給排水管の取替
- 照明器具 LED化
- 空調機器の取替                    について補助金申請する。

## 5 総括

新型コロナウイルスに対して感染には留意しながら、ショートステイ及び特養の入所に関しては入所調整による介護難民は作らないこととして通常の入所を継続してきた。前述したように世田谷区内の特養の増加と待機者の減少またショートステイの世田谷区内での需要（ニーズ）と供給のバランスの逆転傾向（供給体制の方が需要より多くなる）などから来年度も世田谷区内だけではベッドを充足できにくい状況となっていく事が推察される。3年度、特養は前年に比べ利用延べ人数は増加したものの、ショートステイの大幅な減少を

4年度に特養、ショートとも増加に転じていくためには世田谷区だけでなく隣接もしくは近隣市区町村の高齢者の利用へ拡大していかなければベッド管理は困難になってくると推察される。

来年度、狛江市・調布市の居宅支援事業所を中心にPR活動して利用者を呼び込まなければならない。

また、保険者である世田谷区には配慮をしながらも受入枠はできる範囲の中で拡大していきたい。



# 令和3年度事業報告書

成城ケアセンター

## 概況

上半期に利用回数の多い利用者が相次いで施設入所したり、体調不良から利用終了となったケースも多く、稼働率は50%台まで低下してしまっただ。その後新規利用が数名あり稼働率は10%程回復し現在も60%台で推移している。年間を通しての新規利用希望者が、コロナ以降少なくなっており現在もその状況は続いている。

月別延べ利生者数(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
R02	320	301	356	344	314	308	377	295	294	265	270	317	3761	313
R03	303	222	244	252	256	299	347	296	275	265	253	307	3319	276
稼働率	67%	54%	52%	56%	57%	69%	74%	68%	63%	64%	64%	65%	-----	63%

## 収入

稼働率の低下はそのまま収入にも反映しており、年間の平均月收入は約¥3,500,000で、前年度と比較すると一月当り約¥500,000の減収だった。

これは回数で表すと一月約40回利用が減った事になる。

月別総収入(万円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
R02	437	384	463	434	397	391	452	380	382	348	350	409	4827	402
R03	389	278	308	322	329	376	437	368	342	330	279	438	4196	350

## 職員・運営について

年間を通して職員の出入りは無く、職場環境としては安定しており、1日平均約6名の職員を配置。レクリエーションについても前年同様新型コロナウイルスの為外部講師を一切呼んでいなかったが、特に音楽リハビリを希望する声が多かった。そこで職員が創意工夫し、感染症対策を講じながら歌以外の部分に重点を置いた音楽系のレクリエーションを実施したところ、評判は上々だった。

## 課題

登録人数を増やし、稼働率を最低でもあと10%上昇させる事が最も大きな課題であり、稼働率を10%上昇させるには月の利用回数を平均で約50回増やす必要がある。

又、現在休止中の認知症対応型通所介護の再開も視野に入れ、2コースになった際の職員配置・活動フロアの整備・送迎車の増車も適宜考えなければならない。

# 令和3年度事業報告書

成城訪問介護ステーション

## 概況

3年度上半期の前年比84%という落ち込みを挽回すべく、下半期は職員数少ないながらも空きがない状態で稼働しました。新規獲得は8件と多くはないですが、軽介護度の利用者が多いためか安定的にサービスを継続できました。結果、収入は前年を切りましたが、利用者数(107%)、利用回数(101%)、利用時間(100%)ともに前年を維持しました。課題であった常勤職員の補充は3月にやっと1名入りましたがそれまでは欠員状態ゆえ、研修は前年度に比べて機会が減ってしまい、スキルアップは4年度の課題とします。増員した3月からは目標件数の370件とまではいきませんでしたでしたが、近づくことができました。

## 実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	25	24	24	26	26	27	28	28	27	28	27	28	318
利用回数	258	268	281	265	289	318	336	336	325	310	306	361	3671
利用時間	262	268	270	264	288	310	321	318	317	309	306	368	3498

## 収入

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
1,272,290	1,344,351	1,234,356	1,175,587	1,281,890	1,403,221	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,474,234	1,434,276	1,427,419	1,388,365	1,369,662	1,816,113	16,621,764

前年比 96.9%

## 研修参加状況 (web 研修)

- 3月 ・介護現場におけるハラスメント対策説明会 (東京都)
- ・介護サービス事業者支援研修 (国保連)
- 介護サービス事業者のリスクマネジメントとハラスメント対策

## 実習生受入

10/26～2/1 7日間 東京慈恵会医科大学医学部看護学科3年生 17名

## 課題

収入が前年度割れという状況が続いています。サービスを進める中でご利用者の意欲やできること、残存機能を活用しヘルパーと一緒にやるサービスに繋げていき単価の高い身体介護の割合を増やし増収に繋げる。

## 令和3年度事業報告

### 成城訪問看護ステーション

令和2年度、訪問看護の利用者は減少していましたが、令和3年度は、理学療法士等のサービスを開始したことにより、利用者が大きく増加しました。新規利用者数は、令和2年度の66名に対し令和3年度は116名と倍近く増加しています。年間総利用者数は令和2年度の773名に対し1,333名、総訪問回数は、令和2年度5,803回に対し11,139回といずれも倍増しています。ただし、医療保険利用者数は逆にやや減少傾向で、令和2年度の総訪問回数の2,722回に対し令和3年度は2,258回となっています。全体的な割合としては、医療保険2割、介護保険8割で、機能訓練利用者が介護保険中心となったことの影響と考えています。今後もこの傾向は続くものと想定し、看護師の採用と合わせて療法士の採用も同様に継続していく予定です。

サービス内容の追加により、当法人の居宅支援事業所はもとより、近隣の居宅支援事業所からの依頼も増加しています。令和3年度は、依頼内容になんとか対応することが優先でしたが、今後は職員体制を整え更なるサービスの向上を目指します。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3年利用者数	84	91	94	102	106	119	120	118	118	121	124	136	1,333
R2年利用者数	59	54	58	62	61	67	69	62	59	70	77	75	773
R3年新規社数	9	13	5	13	13	14	10	5	6	7	8	10	113
R2年新規社数	3	7	2	5	1	7	5	3	4	18	4	7	66
R3年終了者	4	9	9	10	8	11	10	10	9	8	3	4	95
R2年終了者	5	3	2	3	0	3	6	3	2	3	4	1	35
R3年介護回数	576	619	762	704	704	783	85	800	781	733	709	853	8,877
R2年介護回数	195	185	215	213	206	227	218	198	220	246	324	411	2,858
R3年医療回数	204	188	207	200	218	184	178	163	189	161	146	220	2,258
R2年医療回数	187	180	230	221	287	310	323	209	209	206	204	186	2,722
R3年在宅末期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
R2年在宅末期	13	13	40	35	31	35	13	13	0	0	0	0	193
R3年総合計	780	807	969	904	922	967	1,031	963	970	894	855	1,077	11,139
R2年総合計	395	378	485	469	524	572	554	420	429	452	528	597	5,803

# 令和3年度事業報告書

成城介護保険サービス

## (1) 重点目標について

### 1. 事業運営について

令和3年度はプラン数の目標を月160件とし、積極的に利用者受け入れを行いました。上半期は目標を下回っていましたが、下半期はほぼ目標を達成することができました。介護報酬も前年度を上回っております。

認定調査は新型コロナ感染拡大防止の観点から1年間の自動延長が続いておりコロナ前と比較して少なくなっております。その中でも世田谷区外や他県の、施設入所者を対象とした依頼が目立っております。

介護度別では要介護1、2を中心に増加し、要介護5の利用者が減少しています。

### 2. マネジメントの質の向上について

研修はZOOMやオンライン形式で開催されており、職員が交代でできるだけ参加するようにし、質の向上に努めております。

## 《実績》

### 新規利用開始者及び利用終了者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開始	1	8	5	4	7	7	9	4	7	4	6	5	67
終了	3	2	3	0	4	4	3	4	0	2	1	4	30

### 認定調査（目標/月30件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	5	5	3	6	5	3	7	6	6	14	6	5	71

### 終了時の状況

理由	人数	理由	人数
死亡	17	利用希望なし	2
特別養護老人ホーム入所	6	入院	3
有料老人ホーム入所	1	他居宅へ移行	1

月別プラン作成数（目標月 160 件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
作成数	130 (4)	127 (5)	132 (6)	137 (6)	143 (6)	143 (6)	148 (6)	152 (5)	157 (6)	155 (7)	153 (7)	153 (7)	1730 (39)
達成率	84%	82%	86%	89%	93%	93%	96%	98%	102%	101%	100%	100%	92%

\* ( )内は予防プラン数

介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
支援	4	5	5	6	6	6	5	5	5	7	7	7	68
介1	32	32	33	37	38	39	41	43	46	48	46	47	482
介2	45	43	45	49	51	49	53	56	59	55	52	53	610
介3	23	23	24	22	23	23	24	23	23	23	23	25	279
介4	16	17	18	15	17	18	17	18	18	17	21	21	213
介5	14	12	12	14	14	14	13	12	11	12	12	10	150

研修参加状況

主催	参加	主催	参加
地域包括ケア会議（成城）	1回	世田谷区	2回
成城地区連携医事業	3回	世田谷区福祉人材・研修センター	6回
喜多見地区連携医事業	1回	都ケアマネ専任研修	3名

# 令和3年度 事業報告書

祖師谷ケアセンター

## 概況

新型コロナウイルスの感染者が国内で初めて確認されてから3年目の春を迎えました。長引くコロナ禍で感染予防策を徹底し全職員一丸となって取り組み、利用定員が登録数に達し、平均稼働率80%超と上向きを保持し令和4年1月を迎えました。オミクロン株による第6波、更には感染者数の高止まりと収束の兆しが見えず、利用自粛や濃厚接触に伴う健康観察自宅待機、自宅に籠る等での体調不良など影響も増えていますが、開設30周年となる令和4年度に繋げられる一年になったと感じています。この流れをさらなる次への弾みにできるよう、今後も皆々様のお力添えをいただきながら一步一步 努めて参ります。

建物の構造上、施設設備においても比較的軽度の方を対象とした機能訓練「頭の先からつま先まで」をコンセプトに、機能訓練指導員と共に日々の運動効果を体力測定を通し数値として見える化を目指し目標運営稼働率60%を達成できた一年でしたが、課題である職員体制は整わず厳しい状況で、全職員の互助と鎌田ケアセンター職員の応援協力で営業を続けてきました。その中で相互に業務を振り返る機会や学び発見など刺激となる部分もあり、法人内 通所部門として安定した営業継続、職員研修の一つの形として新たな可能性も感じたところです。

施設建物の老朽化に伴う改修工事は、運営への影響を最小限で抑えた形で実施していただき、世田谷区受託事業 区営高齢者住宅生活協力員業務は継続して参りました。

## 令和3年度 実施状況

地域密着型通所介護・介護予防日常生活支援総合事業（定員18名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働日	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	293
実人数	29	32	37	40	40	39	40	38	40	42	37	38	452
延人数	291	280	342	381	391	374	399	382	385	354	298	351	4228
1日平均数	11.6	12.1	13.1	15.2	15.6	15.5	15.3	15.9	16.0	15.3	13.5	13.5	14.4
稼働率	65%	67%	73%	84%	86%	86%	85%	88%	89%	85%	75%	75%	80.1%
報酬額:万	284	276	353	399	395	406	415	392	367	350	308	338	4283
報酬前年比	26.7%↑	26.6%↑	47.0%↑	68.3%↑	21.5%↑	22.2%↑	17.2%↑	25.2%↑	24.8%↑	37.2%↑	19.3%↑	6.2%↑	27.1%↑

### 介護度別割合

事業対象	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
5.0%(0.0%)	2.5%(0.0%)	2.5%(3.3%)	30.0%(23.0%)	27.5%(30.0%)	25.0%(30.0%)	5.0%(6.6%)	2.5%(6.6%)

## 課題

安定した運営のため職員体制の構築が早急の課題です。また狭いエリアに通所サービスがひしめく地域の中で、利用検討の選択肢に上がる祖師谷ケアセンターとなれるよう求められるサービス提供を模索し、まずは夕食持ち帰り弁当を試行して参ります。

## 令和3年度事業報告

祖師谷介護保険サービス

### 令和3年度の運営状況

令和元年10月の居宅介護支援事業所の再度立ち上げから2年半が経過しました。職員2名で運営を行っていましたが、令和3年3月に1名が異動となり新たに職員1名を採用して、引続き2名での運営をお行っております。

令和3年度のプラン作成状況は新規依頼が18名、月平均の利用者数は62件となり、目標であった78件を下回り目標未達成でした。

認定調査の受託件数は55件と、月間12件を目標としていましたが大きく下回り、こちらも目標未達成でした。

プラン作成数は前年より増加しておりますが、新規の依頼件数は前年度を下回っております。要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響によるサービスの利用控えが継続していると考えられます。新規利用者の依頼先はあんしんすこやかセンターが主でしたが、今年度は医療機関からの依頼が増えており、地域における認識が高まった結果だと思えます。

### 今後の課題

プラン作成・新規依頼件数の目標達成へ向けて、業務の質の向上や研修参加、他事業所との連携・共有を図ります。

### 実績

#### プラン作成（目標78件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	62	65	68	67	62	57	62	63	61	60	57	59	743

#### 新規利用者・利用終了者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規件数	2	3	3	0	0	0	2	2	1	1	0	4	18
終了件数	1	1	1	4	5	0	2	0	2	1	2	3	22

終了時の状況

理 由	人数	理 由	人数	理 由	人数
死 亡	9	有料老人ホーム入所	4	利用中止	2
他居宅移管	3	特別養護老人ホーム入所	3	あんすこに移管	1

介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
支援	6	5	5	6	6	5	5	5	5	5	4	4	61
介 1	23	23	22	21	21	19	20	21	20	18	16	17	241
介 2	13	15	16	16	14	12	14	15	14	16	17	17	179
介 3	6	6	8	8	7	7	8	8	8	7	7	7	87
介 4	8	10	11	10	9	10	11	11	11	12	11	12	126
介 5	6	6	6	6	5	4	4	3	3	2	2	2	49

\*支援には総合事業対象者も含む

認定調査受託状況（予定 月 12 件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
調査 件数	3	1	3	3	4	4	18	2	4	4	3	6	55

研修参加状況

主 催	回数	主 催	回数
祖師谷地区連携医事業	4回	砦地域合同地区包括ケア	1回
玉川地域包括医療研修会	1回	世田谷区ケアマネジャー連絡会	1回
東京都保健福祉財団	1回	世田谷区人材育成・研修センター	1回
一般社団法人中部産業連盟	1回		



# 令和3年度事業報告書

鎌田ケアセンター

## 1.概況

令和3年度は、併設の区民センターの大規模修繕工事が約1年にわたり行われましたが、その間は上用賀にある区立福祉代替施設にて事業を継続してきました。移転により既存の利用者が減少することはありませんでしたが、新規利用者の獲得においては厳しい状況が続きました。

また、送迎時間が増加しサービス提供時間が短くなったことも大きな収入減に繋がり、想定はしていましたが非常に厳しい事業運営となりました。

そのような中、職員体制は上記の事を考慮し、最小限の体制にして今年度をスタートさせましたが、この間看護師1名介護士1名の退職がありました。補充はしたのですが定着できず、現状派遣スタッフに頼らざるをえない状況が続いています。しかし、他職員においては勤務地の変更により通勤時間が現行の倍になった者もいる中で、大きな不平もなく業務に取り組んでもらえたことは非常に感謝しています。そして、法人内の喜多見グループホームかつらの木においては、車両の発着地点として多大なる協力して頂きました。おそらくこれがなければ、送迎の編成がさらに困難となり事業の運営にも大きな影響出ていたことは必至でした。法人内の各部署の方々につきましても、様々な協力を頂いたこと大変感謝いたしますし、同じ地域で運営している事業所との協力体制が、いかに大切かを感じる事の出来た一年でした。

区営高齢者住宅生活協力員業務は、安否確認を中心に前年と同様実施しています。

## 2.実施状況

### 収入

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護報酬・万	300	243	252	242	241	228	244	229	232	227	229	269	2936
報酬前年比	21%↓	19%↓	38%↓	47%↓	32%↓	39%↓	39%↓	24%↓	25%↓	3%↓	22%↓	16%↓	27%↓

### 通所介護・日常生活支援総合事業通所介護（定員25名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	293
実人数	35	32	32	31	30	29	29	29	29	30	30	31	367
延人数	321	272	283	267	265	263	270	260	262	256	257	299	3275
1日平均	12.8	11.8	10.8	10.7	10.6	11.0	10.4	10.8	10.9	11.1	11.7	11.5	11.2
稼働率(%)	51%	47%	43%	43%	42%	44%	42%	43%	44%	45%	47%	46%	45%

### 介護度別割合

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
通所・総合事業	3%	0%	10%	29%	19%	16%	23%

## 3.課題

令和4年度は、大規模修繕工事も終わり新たな決意を持ってスタートします。全面改修となった入浴設備を中心に居宅支援事業所にアピールし、まずは稼働率70%を目標に移転前・コロナ禍前と同じ状態に戻していきます。同時に、受け入れ側となる職員体制の充実も急務ですので、特に運転ができる職員が不足している現状では、送迎業務に影響も出てきておりますので、様々な方法を実践し採用に繋げていきます。

区民センター併設の通所介護事業所として連携を深め地域に貢献をすることで、鎌田地域のデイサービスの窓口となれるよう努力していきます。

# 令和3年度事業報告書

鎌田介護保険サービス

## 1. 概況

今年度は、引き続き3名体制で、コロナ感染拡大防止を心掛けながら計画作成件数の目標達成と維持に努め、経営の安定を目標として事業に取り組んでまいりました。

令和3年度のプラン作成は、月平均108件で、前年度同様目標件数を達成することができました。認定調査の受託件数は、月平均7件と、コロナ禍の為依頼が少ない状況となっています。また、1年間にわたり、鎌田区民センターの大規模修繕工事が実施され無事完了致しました。併設の通所介護事業所が仮移転してまいりましたので、連携を図ることが困難な状況でしたが、来年度は、円滑に連携をとりながら事業所全体の運営の安定に努めてまいります。

## 2. 実施状況

プラン作成数（目標月間105件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別件数	111	110	109	111	111	111	111	109	108	106	103	106	1306
前年度	108	103	104	107	109	107	108	111	110	109	114	116	1306
達成率(%)	105%	104%	103%	105%	105%	105%	105%	103%	102%	100%	98%	100%	102%

介護度別割合

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
割合	2%	5%	28%	30%	11%	13%	11%

認定調査受託件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別件数	3	2	2	1	5	5	7	7	6	6	7	17	86

特定事業所集中減算チェック状況

紹介率最高法人（80%以上減算）					
前期（3月～8月）			後期（9月～2月）		
訪問介護	チームケアめぐみ	23.8%	訪問介護.	チームケアめぐみ	23.6%
通所介護	鎌田ケアセンター	27.6%	通所介護	鎌田ケアセンター	24.4%
福祉用具	パナソニック	17.8%	福祉用具	パナソニック	18.2%

## 3. 課題

経営の安定

プラン作成件数の維持

併設事業所との連携

## 令和 3 年度事業報告

社会福祉法人 古木会  
鳥山グループホームくつろぎ

### 概況

入居者は下半期に2名の退所があり、1名の新規入所があったが実員8名の状態が続いたため減収となってしまった。

また入所者の要介護状態が進み、要介護度3～4の中重度者が半数となり、食事介助や排泄介助が職員業務としてのポイントとなり課題となっている。

人事関係では、紹介業者からの新規採用も行なったが、その後の新規職員採用もできず余裕のない状況が続いている。

新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、利用者の外出や買物の他、地域との交流活動への参加見合わせや社会資源の導入（ボランティアの日常活動や行事活動への参加）ができず、生活支援の活性化が図れない状態が続いた。また職員は、感染予防対策などでより以上の緊張感を維持しながらの業務継続で精神面での負担増を余儀なくされた状況であった。しかし、感染予防対策の継続と訪問看護や訪問診療など医療関係の指導等もあり、利用者及び職員の感染や発症は無かった。

その他シルバーピア生活協力員業務2ヶ所を世田谷区から継続受託し入居者の安否確認、相談業務を実施した（アーク上北沢・フローレル北鳥山）

### 利用者状況

1. 利用者の状態変化（認知症の進行や歩行困難等による易転倒状態）が進行し、食事の要介護者が増えて嚥下障害や、歩行障害による車椅子による要介護状態が増えることとなった。またこれらが要因となり2名が特養への入所、1名が長期入院のため退所となっている。尚予防策としては、夜間の利用者を安全に支援するため、センサーマット等の機器を導入して安全対策を行っている。

日中の生活支援では、見守り支援や排泄誘導介助を行いながらも、軽体操や音楽レク等を行ない介護予防に努めた。コロナ禍の影響のため、頻繁な外出活動等の支援は実施出来なかったが、庭園での外気浴や少人数での近隣公園への散歩等を実施した。共用型デイの利用は、外部の利用希望者・実績はなかった。

(1) 入居者状況 平均年齢 82歳(男性79歳/女性83歳)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数(人)	9	9	9	9	9	9	9	8	9	8	8	7	103
入居者延人数	270	279	270	279	279	270	279	241	279	253	224	235	3158
稼働率(%)	100	100	100	100	100	100	100	90	100	90	88	84.2	96
新規入居者数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
退去者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3

2. 季節行事等（外出行事や家族参加による行事以外）を実施した。  
4月お花見・9月敬老祝い会・12月 Xmas 会・2月節分豆まき・3月雛飾り等を開催し、利用者に少しでも季節を感じて頂けるよう実施した。またご家族には利用者の様子を写真入り通信でお伝えした。  
その他利用者の誕生日には茶話会で誕生会を実施した(記念写真・ブーケ贈呈)
  
3. 利用者の健康管理は日々のバイタルチェックと、訪問診療（1人月2回）と法人訪問看護ステーション（毎週1回）の相談・協力の下に行った。また訪問診療でのインフルエンザ予防接種の実施と日々の手洗い、口腔ケア等の実施によりインフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルス等の感染を防ぐことができた。  
日常生活支援においては、ボランティアの導入を見合わせた為、合唱やレクリエーション、DVD 軽体操などを職員担当で行なった。  
またコロナ感染蔓延迄は、買物同行等の外出により、地域住民とのふれあいの機会が利用者の楽しみとなっていたが、今年度も感染症予防のために商店街の人混みへの外出を控え、公園や庭園での外気浴に抑えた。またご家族面会等の交流も中止とした。

#### 運営状況

1. 経営状況は、下半期に2名の退所があり、減収となってしまった。また利用希望者の問合せも減少しており、同種の事業所の増加による影響で今後のベッド管理維持と事業の PR が重要課題である。
  
2. 運営推進会議は本来、地域の住民(町会関係者)、地域包括支援センター職員、利用者、家族の参加により、年 6 回、奇数月、原則第 4 土曜日の午後に開催する予定であったが、コロナ禍による感染予防のために開催を中止。出席予定者（入居者家族の他、地域町会の関係者と地域包括支援センター職員）には利用者生活支援の報告を文書で行った。
  
3. 職員研修は、コロナウイルス感染症の影響から法人研修の実施が見送りとなり、またグループホーム連絡会等の外部研修の参加機会も無かったが、代わりに事業所内で実施できる Web のオンライン研修などに参加した。また Web 研修実施のため世田谷区職員研修費助成事業を申請し、研修費用の助成を受けた。  
\*研修内容（自衛消防訓練～東京消防庁ホームページでの Web 研修他・感染症予防・虐待予防等に参加。事業所研修～救命救急 AED 実技講習を実施）

4. 福祉サービス第三者評価を実施した（日本ライフサポーター協会委託）  
生活場面の視察など評価機関により訪問調査と、職員・ご家族アンケートが行われた。評価結果はインターネットで公表されている。また事業所によるサービスの自己評価を実施し、評価結果（改善課題）を世田谷区に報告した。  
※第三者評価実施にあたり、世田谷区の事業実施補助金を申請し利用した。
5. 個人情報の保護について  
個人情報の保護については、新規職員には採用時に日常の電話対応なども含め指導し、全職員に対しても利用者情報の取り扱いの注意事項等を周知した。
6. 施設における公益的な取組みについて（社会貢献事業）  
今年度はコロナ禍の影響により、事業所と地域コミュニティとの連携は実施できなかったが、世田谷区介護予防課及び地域包括支援センターの主催により1Fの多目的ルームで介護予防講座（高齢者筋力アップ教室）が開催され、登録した高齢者が集い毎月実施した。  
3月からは社協・NPO法人の紹介、主催により地域支援事業（月1回）が開始となり、多目的ルームの使用時に協力を行っている。
7. 新型コロナウイルスの感染予防対策として、利用者、職員の手洗いとアルコール等消毒による手指及び館内設備（手すりやトイレ、台所等）の衛生管理と、体温計測と日々の体調チェックを行なった。  
また利用者には日々の口腔ケアを継続し、職員も常時のマスク着用を徹底することで外部からの利用者への感染防止に努めた。結果として今年度中の利用者及び職員の感染は無かった。  
またコロナウイルスワクチン接種を世田谷区ワクチン接種チーム（医師・看護師）の協力を得て実施した。  
（利用者及び職員を対象として①6/15,②7/6,③2/16,3/2 に実施した）

# 令和 3 年度事業報告

社会福祉法人 古木会  
高齢者一時生活援助施設ほのぼの

## 概況

今年度からは昨年度までの指定管理事業から区の委託事業に変更となり、利用対象者も自立高齢者の他、軽度認知症状などによる要介護状態の高齢者も区の閉庁日を含め 24 時間体制で受入れを行なった。

利用者は、特に夜間の警察保護により受け入れた対象者は認知症状があり、身元情報や身体状況（病状や服薬等）が不明のため、コロナ感染症対策と合わせて個別の安全対策と事故予防を重点に対応を行った。その為併設事業所と訪問診療との連携で支援を行った。

利用者の期間は 2 名の利用者が成年後見制度の申請の関係から、6 ヶ月の利用期限を更新しての利用となったが利用日数は 62 日が平均であった。

毎年実施していた施設の PR（区内保健福祉課等担当職員対象の内覧会）は、コロナ禍の影響により今年度も実施が見合わせとなった。

### 1. 利用者状況

今年度、利用者は主に在宅生活困難等（独居及び介護者による介護困難）の他、警察保護により身元情報不明の緊急ケースもあり、コロナ感染症の予防と合わせて要介護 2 程度迄の心身の介護支援を要する利用者も受け入れ対応した。

利用者の平均利用期間は 1 人 62 日で、内 2 名は成年後見制度申請手続きの為 6 ヶ月の利用期間を延長し 1 年に渡る利用となった。

### 2. 職員研修

職員研修は、コロナウイルス感染症の影響から法人研修の実施が見送りとなり、代わりに下半期は事業所内で実施できる Web のオンライン研修他を行った。

\*研修内容（自衛消防訓練～東京消防庁ホームページでの Web 研修他・感染症予防・虐待予防・救命救急講習～心肺蘇生・AED 実技講習）

### 3. 利用状況に関する実績

#### (1) 年間入退所者数

新規入所者数・・・ 10 名 退所者数・・・ 9 名 利用実人数・・・ 11 名

※前年度からの利用継続者・・・ 1 名

(2) 月別利用者数 (月平均利用者 2.6名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者(人)	1	2	2	3	3	2	4	3	1	4	4	3	32
利用延日数	30	35	31	65	93	60	82	70	31	66	62	64	689
稼働率 (%)	20	22	20	42	60	40	53	46	20	42	44	41	37.7
新規入居者数	0	1	1	1	0	0	2	0	0	3	1	1	10
退去者数	0	1	0	0	1	0	1	2	0	1	2	1	9

(3) 年間利用率 37.7% (5名定員中)

(4) 入所期間 (昨年度を含む)

6ヶ月未満：9名 6ヶ月～1年未満：1名 1年以上：1名

(5) 平均利用日数 (1人あたり) 62日

(6) 年齢構成

65～69歳：0名 70～75歳：2名 76～79歳：2名 80～84歳：1名

85～89歳：3名 90歳以上：1名 平均年齢：75.3歳

(7) 認知症等を有する利用者：11名

(8) 要介護度

要支援2 1名 要介護1 4名 要介護2以上 4名 計9名

(9) 退所後の行き先 (年度内退所9名中)

在宅 (自宅) . . . 4名

施設入所 (養護老人ホーム・有料ホーム他 . . . 5名)

4. 主な事業実績の評価と改善の取り組み

(1) 行政との連携について

利用者の入所に際しては、昨年度迄は入所判定会議で高齢福祉課及び保健福祉課担当者からの情報を得たが、今年度からは緊急入所 (警察や保健福祉課に於いての一時保護) ケースが多く、医療関連の情報 (服薬管理や身体状況の確認、コロナウイルス感染症) が不明での受入れ対応となり、入所直前及び入所後の確認となり、福祉担当者や医療機関との連携を密に行なった。

また入所後も高齢福祉課への月次実績報告を提出する他、各担当保健福祉課への利用者の状況報告を随時行い、健康状態の変化 (不穏行動の有無や疾患の状態等) や退所後の生活支援に向けての情報 (本人の意向、希望等) を提供した。

・今年度からの区閉庁時 (平日夜間及び休日) の警察一時保護対応については、世田谷区保健福祉課を通じて入所依頼と情報提供があり、当所での受入れ基準 (要介護2程度迄) により受入れを行った。またコロナ感染症の情報が不明のケースも多々あり、施設入所時の予防策 (一定期間の居室配膳と居室限定の生活支援) と入所後の速やかな検査実施等を区担当者 と関係医療機関の協力を得て実施した。

## (2) 利用者支援について

- ・利用者に対しては、入所後に支援方針を検討し、職員が統一した支援を行なった。また入所中の利用者の行動や心境等については詳細に記録し、職員間の申し送りを通して、支援方針の確認を行った。
- ・緊急入所にて受入れた利用者については、認知症状により記憶障害で氏名や住所の他、身体状況（病歴や服薬等の有無）も不明のまま日々の生活支援を行い、安全に配慮した入浴や一時的な更衣の支援（衣類の貸与）、日常的な身体上の手当（軽度の医療処置）等も訪問看護や医療機関の協力で行った。
- ・身体機能の保持を目的とし、入所後の利用者の状態と日常生活の自立度の経過を見て、個々の状態に応じて居室の掃除、洗濯、入浴等は自立維持を基本に支援した。しかし認知症や身体障害の状態により自立できない利用者もあり、居室内の清掃や衣類の洗濯、入浴時の一部支援や介助なども行なった。
- ・健康管理については、基本的には個々の主治医との連携を図る他、1日2回のバイタルチェックを実施し、症状により救急時には地域の医療機関への受診同行を行なった。外出困難な利用者については、併設事業者との連携により訪問診療医の協力を得て問診や予防接種の実施、服薬管理等を通して体調の維持管理に努めた。
- ・心身の健康維持のため、併設事業所との協力により散歩など外出援助や季節の行事への参加を勧め、孤立防止や精神的な安定が図れるよう支援した。  
\* 季節行事（敬老祝い昼食会（9/20）・Xmas会（12/24）・雛飾り（3月等）
- ・退所時には利用者満足度調査を実施し、事業運営や業務改善の参考とした。

## (3) 安全面・建物管理・衛生面について

- ・法人安全衛生委員会（毎月最終木曜開催）に管理者が参加した。
- ・施設建物の維持管理については、高齢福祉課と連携の下、保守・点検を行った。専門知識が必要な部分については、下記業者に再委託し実施した。

点検内容（委託業者）	・実施回数（実施日）
消防設備点検（中央報知機）	・年2回（8/16 機器点検 2/17 総合点検）
昇降機設備点検（東芝エレベーター）	・年4回（6/21・28 9/16 12/22 3/8）
	※3/8 法定点検 ※遠隔監視メンテナンス毎月実施
館内床面清掃（キングランメディケア）	・年3回（7/20 11/19 3/18）
樹木剪定 檜他（青山造園）	・年1回（7/31）
カーテンメンテナンス（キングラン商事）	・年1回（11/2～11/10）
GHP（ガスヒーポン）室外機修理（東京ガス・東京冷機工業）	（2月）
建物設備点検（オリエントサービス委託）	・（年1回）（3/16）

- ・1F だれでもトイレの改修工事を実施した。  
（トイレ内洗面台の再設置工事及び手すりの設置工事）大槻ホーム業務委託



- ・ 1F 多目的ルームを世田谷区備品（感染症対策物品）の搬入・管理場所として継続利用の為、荷物の搬入・搬出時の他駐車場利用時等の管理業務を行なった。また6月から3月迄世田谷区介護予防課及び地域包括支援センターの主催により介護予防講座（高齢者筋力アップ教室）が開催され協力した。  
6月（1回）7月（1回）9月（3回）、10月（4回）、11月（5回）、12月（3回）1月（3回）2月（4回）、3月（2回） 年間計 26 回実施  
3月からは社協・NPO 法人の主催により地域支援事業（月 1 回）が開始となり、多目的ルームの使用時に協力を行っている。（3/18）
- ・ 今年度は新型コロナウイルス感染症とインフルエンザやノロウイルス等への感染予防（職員のマスク着用、消毒等）を徹底し、インフルエンザ予防接種の他、コロナウイルス対策として社会的 PCR 検査を職員に実施した。（8/27 実施し結果は陰性であった）また新型コロナウイルスワクチン接種を世田谷区ワクチン接種チーム（医師・看護師）の協力を得て実施した、（利用者及び職員を対象として①6/15, ②7/6, ③2/16, 3/2 に実施した）

## 5. 次年度の課題

- ・ 区委託事業により利用対象者が自立高齢者の他、認知症状や身体介護等の要介護高齢者の受入れの増加により、利用者の施設内での安全管理対策と職員の介護スキルアップが重要となっている。今後も施設内の環境整備と職員の研修実施に努めたい。また休日を含む 24 時間の緊急入所受入れのため、対応する職員間の連絡体制と速やかな受入体制のマニュアルを検討していきたい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対応や認知症利用者等の症状（帰宅・外出要望や不穏行動時）対応が更に予想される。緊急時の連絡・対処法、また病状急変時の医療連携（救急要請と受診同行及び情報提供、服薬管理など）についても迅速に対応できるように準備したい。
- ・ コロナ禍の影響が続いているが、施設の PR を目的として、総合支所保健福祉課窓口担当職員への利用案内（施設案内の実施方法）や空室情報の提供などを高齢福祉課と相談・指導を得て行ないたい。

# 令和3年度 事業報告

中町グループホーム ふるさと

## 概況

令和3年度も運営、経営の安定を目標に取り組んでまいりました。運営面では、現在勤務している職員は安定、定着しているものの、人事異動なども重なり、人材不足の解消までには至りませんでした。新人職員の入職が年間を通して常勤・非常勤職員合わせて3名に留まってしまい、派遣職員に頼らざるを得ない状況が続いており、勤務表を調整しながら対応しております。介護職員の雇用が安定しない状況は、紹介会社からの紹介自体が、年々少なくなっている現状からも、厳しい状況が垣間見られています。

経営面でも、派遣職員など人件費の割合が高く、こちらも厳しい状況が続いております。新型コロナウイルスが猛威を振るう中ではありましたが、上半期は高い入居率を保つことができました。しかし下半期は、年明けに退所が続いてしまい、入居率が低迷しています。今後も中町介護保険サービス、中町訪問看護ステーションと連携を図り、玉川地域を中心に営業をかけながら、稼働率アップに寄与できる基盤を築き、収支の安定を図っていただければと考えています。

## 利用者状況

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、利用者の外出機会も減少し、ご家族の面会禁止なども続きましたが、感染症による体調不良者は出ておらず、利用者全員元気に過ごしております。3回目の新型コロナワクチン接種も令和4年2月上旬には利用者全員終了しております。引き続き、主治医や訪問看護と協力しながら感染症対策を徹底していければと思います。

(1)入居状況(平均介護度 2.85(2階 2.71/3階 3.0) 平均年齢 88.2歳(2階 90.3/3階 86.1))

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数(人)	17	18	17	16	17	17	17	17	17	17	16	16	202
稼働率(%)	95.0	95.5	96.8	89.2	90.0	88.8	89.0	90.5	93.5	93.1	92.2	88.8	91.8
2F	8	9	9	8	9	9	9	9	9	8	7	7	101
3F	9	9	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	101
新規入居者数		1			1		1			1			4
退去者数	1		1	1			1			1	1		6
退去理由	特養 入所		入院	特養 入所			療養型 入所			特養 入所	入院		

## 運営状況

(1)人材の確保・育成

①人材確保:本部事務局と相談しながら人材確保に努めています。直接雇用の新規入職者はおらず、主に派遣会社からの紹介での対応となっております。常勤職員2名、非常勤1名が入職しておりますが、ほかは主に派遣職員で対応しています。常勤・非常

勤職員と派遣職員が入れ替わるように取り計らいます。

- ②人材育成：世田谷区の研修助成費を受け、事業所内研修、オンライン研修などの受講を行っております。なお令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、AED研修など感染予防に配慮し、事業所内での対面研修も実施しております。

## (2) 活動・地域交流

- ①日々の活動：体操・散歩などを実施。
- ②季節行事：花見外出、花壇の植替え、うなぎ井（毎月の食事会）、敬老会（食事会）、クリスマス会等を実施。
- ③誕生会：通年実施。
- ④町会行事への参加：毎年10月1日に実施される天祖神社大祭の神輿は、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり中止の運びとなり、ふるさとの敷地駐車場を休憩所として提供するなどの地域交流はありませんでした。
- ⑤敬老会（食事会）：令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ご家族のフロア入室をなしとしていたため、食事会のみとなりました。スーパー歌舞伎で有名な新橋演舞場のお弁当（演舞場の台所）で対応し、利用者の方々に大好評でした。
- ⑥1階の空室利用：地域貢献の一環で、近隣の玉川消防署より依頼を受け、災害時・緊急時に消防隊の待機場所として、ふるさとの空室4部屋を貸し出す予定ですが、令和3年度の利用はありませんでした。

## (3) 医療連携

在宅診療（2回/月）、訪問看護(概ね週1回+随時)の定期連携及び夜間、休日等、ご利用者緊急時は連絡、連携を図るなど随時対応していただいております。なお新型コロナウイルス感染症予防接種については、1回目、2回目ともに令和3年7月に実施。令和4年1月～2月にかけて3回目が終了しております。

## (4) 運営推進会議

偶数月（6回/年）に開催し、町会（会長）やあんしんすこやかセンター職員などが参加しています。令和3年度は書面決議のみになっており、開催日は、4月15日、6月17日、8月19日、10月21日、12月16日、2月17日となっています。

## (5) 他

- ①令和3年度福祉サービス第三者評価は、緩和要件を満たしており免除となっています。
- ②消防設備点検、防災訓練：2回/年実施+オンライン消防訓練。
- ③カーテンクリーニング：ふるさと内の1～3階までの全てのカーテンを新品に交換しております。

## 課題

中町訪問看護ステーション、中町介護保険サービスと連携、営業を展開し、空室率を低減させ収支の安定を図っていきます。なお令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の予防を徹底しながら研修の実施に努めました。オンライン研修ではありましたが数多くの研修を実施することができました。現在勤務する職員の人材育成を念頭におきながら、今後は、職員をどのようにして効率良く獲得していくかが大きな問題となります。本部事務局と相談しながら人材を確保、育成に力を注いでいければと思います。

# 令和3年度事業報告書

中町介護保険サービス

## (1) 運営状況

令和3年度は4月に職員1名を採用し2名体制で、月間78件のプラン作成を目標として運営をしてきました。プラン数増加に向けあんしんすこやかセンターや医療機関と連携をはかり、3年度は35件の新規依頼がありました。そのうち31名の方について支援を開始しています。前年度の新規依頼は5件であったことから、依頼数の増加は地域において自事業所を認識していただけたものと思います。また、訪問看護ステーションが併設していることも、医療機関からの依頼を受ける大きな要因となっており、医療ニーズの高い方が増加傾向にあります。

契約の終了については、14名の方が施設入所・死亡などにより支援を終了しています。

## (2) 実績

実績では介護報酬は前年度比185%増、プラン数においては147%増となりました。前年度比においては大きくプラスに転じていますが、目標としたプラン数の作成には至っておりません。

## (3) 質の向上について

今年度もコロナ禍の影響から集合型の研修は開催されず、ZOOMを使った研修に積極的に参加し、個々の職員のスキルアップを図ってきました。特に新任職員については、新任者を対象とした研修を受ける機会を設けております。

地域包括支援センター主催の地域連携事業に参加し地域について理解を深めている。また、個別の支援について地域ケア会議の場で検討するなど、今後の支援の質を向上させる大きな機会となっています。

## (4) 今後の課題

運営において、地域のあるしんすこやかセンターや医療機関との連携を図った結果、目標としていた月間3件の新規契約に僅かに及ばなかったが、事業所を認識して頂く機会にはなった。今後も関係機関との連携を図りながら、新規の利用者の依頼を頂けるよう顔の見える関係性をつくっていききたい。

### 《実績》

新規利用開始者及び利用終了者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開始	1	2	2	2	5	1	3	1	4	3	1	3	31
終了	0	1	1	2	0	1	1	1	1	1	1	4	14

終了時の状況

理由	人数	理由	人数	理由	人数	理由	人数
死亡	6	入院	1	転居	1	施設入所	4
移管	1	入院	1				

月別プラン作成数（目標 78 件/月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
作成数	17	19	21	22	23	24	26	26	26	25	29	30	288

介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介1	3	2	2	2	2	3	3	4	5	8	8	8	50
介2	6	6	8	9	10	9	10	9	10	10	10	11	108
介3	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	16
介4	7	9	9	8	9	9	11	11	9	8	8	7	105
介5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

認定調査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	1	1	2	2	2	1	1	0	0	10

研修参加状況

主催	回数
地域連携事業(上野毛あんすこ)	4回
区福祉人材育成・研修センター	11回
東京都福祉保健財団	1回
世田谷区ケアマネジャー連絡会	1回

# 令和3年度事業報告

中町訪問看護ステーション

## 1. 概況

ビジョン：人の苦しみを知り、その苦しみに寄り添える看護をめざす

理念：利用者・家族の思いに寄り添い、安全で質の高い看護を提供する

医療・保健・福祉サービスと連携し、地域包括ケアシステムを支える。

を掲げ、開設2年となりました。コロナ禍の中利用者は月平均約25名と中町グループホームふるさと入居者様の健康管理を週1回行いました。自宅見取りは13件で、昨年より倍となっています。収入は前年度より約75%増額し、稼働率は前年と同等でした。利用者確保は近隣の居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンター、クリニック、病院、同法人事業所からの紹介を得ることができました。職員は退職者3名、入職者1名で、職員募集を継続していますが、増員には至っていません。しかし看護の質向上のためにリモートでの勉強会の参加は継続しております。

## 2. 実績

人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	18	16	15	18	15	15	18	21	18	17	17	15	203
医療保険	7	7	7	7	7	9	9	9	9	8	12	9	100
新規	2	0	0	0	0	3	2	5	2	3	5	1	21
終了	1	0	0	2	0	1	0	2	3	3	4	5	21

回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護保険	95	86	94	111	86	84	94	108	96	76	82	98
前年度比	63%	78%	0%	10%	0	0	10%	10%	10%	0	0	0
医療保険	60	45	88	69	62	79	83	82	78	69	65	75
前年度比	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 3. 課題

職員確保：常勤換算数確保と24時間365日の看護提供の為必須。

利用者確保：同法人事業所、併設事業所、地域事業所、あんしんすこやかセンター、クリニック、病院、近隣訪問看護ステーションとの連携を強化し利用者確保の努力を継続する。

経営の安定：月180回以上の訪問、200万円以上の収入を維持する。

看護の質の向上：多種の疾患に対応できるよう学習を深める為、内・外部研修の参加、症例検討会を重ね学びを深める。

## 令和 3年度 事業報告

社会福祉法人 古木会  
喜多見グループホーム かつらの木

### 概況

利用者の入退所は、年度内に5名が退所し、4月、6月、11月、12月に各1名ずつ計4名の新規入所があるも18名の定員を維持することが出来なかった。退所者5名のうち1名はご家族の意向を受けて施設での看取り支援を行った。

また利用者の重度化が進行し、転倒のリスクや利用者からの暴力行為等の課題を抱えながらの介護なっている状況であり、医療との連携（訪問診療と訪問看護）の協力を得て重症化しないよう支援を行なった。

人事面では、現在派遣職員は0名となっているものの深刻な人出不足の状況が続いている。新規採用職員は4名（紹介業者からの採用3名、ハローワーク1名）あったが、そのうち2名はほとんど勤務実績なく出勤せず。その為、結果的に計2名の補充にとどまっている。

退職者は6月、7月、8月、11月と各1名ずつ計4名が退職しており、結果的に少ない職員で運営する他なく、月に10～20時間程度の超過勤務がほぼ職員全員に発生している状況である。

また全体の1/3の職員が60歳以上となっており高齢化が進んでおり重度の介護には対応が難しい面も多い。しかしながら深刻な人出不足がある現状を踏まえると高齢の職員にも業務をお願いする他ない状況である。今後職員の高齢化についても解決すべき課題となっている。

収支状況は、利用者の退去により居室の空床が続き、それに加えて設備面の経費（館内LED照明・下水道修繕費等）や職員採用時の紹介料等が嵩む状況となりマイナス収支となってしまった。また年度末時点で空床が2床あり、見学等の問い合わせはあるものの入所希望者が少ない。そのような状況下で他事業所からのご紹介等で面接に繋がり、いよいよ契約となっても寸前でご利用を辞退される方が2名ほどあり、なかなか満床には至っていない。引き続きベッド管理と施設PRによる利用者獲得が今後の課題である。

## 事業実施状況

### 1. 入居者・退去者状況

入居者（平均介護度 2.4 平均年齢 87.8 歳(男性 83.5 歳 女性 90.6 歳)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数(人)	17	17	16	16	16	16	15	15	15	15	15	15	188
入居者延人数	508	527	515	496	496	480	488	452	455	465	420	465	5767
稼働率 (%)	94.0	94.4	95.3	88.8	88.8	88.8	87.4	83.7	81.5	83.3	83.3	83.3	87.7
1F	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	90
2F	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	98
新規入居者数	1		1					1	1				4
退去者数			2				1	1	1				5
退去理由			病院 死去					病院	病院				

\*入居者～ 4月1名 6月1名 11月1名 12月1名 計4名

\*退去者～ 6月2名 10月1名 11月1名 12月1名 計5名

2. 季節行事や誕生会はコロナ禍のために地域のボランティアやご家族の参加を得ることができず、機会は減ったが施設内で職員の支援で実施した。また利用者の日常生活での自立支援を念頭におき行なってきた食材買物の同行支援も縮小せざるを得ない状況であった。その他利用者の重度化などにもより散歩等の外出活動もマンツーマンで対応し、感染予防のため商店街などの混雑は避けて実施した。

### 3. 利用者健康管理について

医療面での支援は、みのわ内科と山口歯科による訪問診療、法人内の成城訪問看護ステーションの訪問指導などを受けて日々の健康管理に努めた。

入所者1名については食事摂取が困難な状況となり、ご家族の希望に沿い医療機関（訪問診療と訪問看護）、施設職員の協力により看取り支援を行いご逝去された。他3名は身体状況が病状によって重度化（下肢の切断等）、しグループホームで生活するレベルを超えた為、療養型施設等に移動となった。

### 4. 感染症予防・転倒等事故防止について

新型コロナウイルス感染症の予防対策は、訪問看護師等の指導を受けて職員のマスク常時使用や、利用者の手洗いや口腔ケアなどの衛生管理も徹底し感染予防に努めた。重度の利用者は居室でのセンサー設置や見守り支援に努めたが、それでも転倒による打撲や骨折等により、主治医の他外来の



医療機関受診や短期入院等により医療との連携が欠かせない状況であった。それでも夜間帯の利用者対応時（排泄介助や移動支援）にセンサーが事故防止効果に役立っている。

5 運営推進会議開催について

コロナ禍の為開催を見合わせ書面開催とした。ご家族、地域包括支援センター職員、地域住民（自治会役員）に対しては電話や文書等で利用者状況や施設運営状況について説明、報告の機会をもった。

- 6 職員研修はコロナ禍のために法人研修・外部研修が中止となり、下半期には Web でのオンライン研修に参加することができスキルアップを図った。職員の研修参加費等については、世田谷区職員研修費等助成事業を申請・助成金を活用し、職員の研修参加の一助となり効果を得ることができた。  
\*参加研修（ハラスメント対策・自衛消防訓練～東京消防庁オンライン研修等）職員個々に行った。

7 福祉サービス第三者評価受審について

福祉サービス第三者評価について、今年度は評価実施免除であったため、事業所によるサービスの自己評価を実施し、評価結果（改善課題）を世田谷区に報告した。

8 災害対策等緊急時への対応

防災避難訓練を新人職員・派遣職員を含め行ない、利用者の緊急時の避難・誘導が円滑に対応できるように努めた。

## 統括

令和元年度から6年間の契約で委託され、毎年10分野21項目にわたり評価を受けている。令和2年度分の評価は48点満点中44点～47点（平均43.2点）で、問題なく運営できていると評価された。令和3年度分及び中間評価は文書の提出やヒヤリングの他、区民等へのアンケートを6月～9月にかけて実施される予定となっている。

## 運営管理について

(1) 管理・運営体制：あんしんすこやかセンター管理者が月1回会議を開催し、状況報告や情報の共有を行い、必要に応じて世田谷区へ確認等を行った。

(2) 個人情報保護：データ管理はもちろんのこと来所者のプライバシー確保のため、必要に応じて相談室で対応を行った。また、区のシステム入力時に個人をまちがえて入力するといった事故があり、同じ間違いが起きないように方策を行った。

(3) 安全管理：災害発生時、緊急対応、感染症対策などの取組としてあんしんすこやかセンターとしてのマニュアルを作成し、職員全員で確認を行っている。また、必要に応じて、更新を行う予定としている。

(4) 質の向上：日々の申し送りでケースの報告を行い、担当者が不在でも職員全体で対応できるよう今後の支援方針など検討した。特に対応が困難なケースは三職種（保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー）で話し合いながら対応を行った。また、コロナ禍で研修が動画配信やオンラインでの研修が増えたため、複数で研修を受けることができた。

(5) 職員体制：昨年度は、職員の育休に伴う欠員や退職者があり、一部事務職で職員体制をカバーしていたが、4月になって職員の確保を行うことができた。職員の定着のため、管理職が定期的に一人一人との面談を実施している。今後、定年を迎える職員もいるため、継続的に職員の確保は検討する必要がある。

# 地域包括支援センター事業実績報告書

地域包括支援センター名	梅丘		祖師谷		成城		喜多見		
	上半期	年間	上半期	年間	上半期	年間	上半期	年間	
延べ相談件数	3517	6905	5502	11113	4023	7495	3959	7537	
うち相談拡充相談件数	42	84	137	181	17	28	17	59	
実態把握		1093		2856		867		1276	
介護保険手続受付件数	201	463	274	567	121	237	252	576	
総合事業ケアマネジメント実施件数	583	1188	488	969	444	879	384	793	
ケアマネジメントA 実施件数	573	1169	475	945	436	852	373	760	
ケアマネジメントB 実施件数	6	15	21	44	10	15	14	21	
ケアマネジメントC 実施件数	0	1	0	0	0	0	0	0	
内 訳	ケアマネジメントA	0	0	0	0	6	6	6	12
	ケアマネジメントB	0	0	0	0	0	0	0	0
	ケアマネジメントC	0	0	0	0	0	0	0	0
予防給付実施件数	491	1000	573	1192	407	854	516	1064	
会議・講座 実施・出席件数	地区版地域ケア会議	4	7	4	6	3	5	5	6
	地区包括ケア会議	14	33	9	25	3	5	6	12
	地区連携医事業	2	4	6	12	6	12	5	11
	家族介護者の会	3	6	2	4	4	10	2	4
	いきいき講座	1	8	1	3	2	4	1	3
研修	研修等出席回数(従来事業)	6	24	17	32	11	44	14	41
	研修等出席回数(相談拡充)	1	8	1	7	9	20	1	8

## 1、総合相談（・相談対応・ネットワークの構築・実態把握・PR）

○総合相談件数は6905件であった。相談を受ける際は困難となっている事柄を整理しながら対応し、その相談内容に適した専門機関や関係機関へ繋いでいる。

○町会の会長と災害時の高齢者の見守りや支援について現状と今後に必要なことについて検討を行い、町会の住民に対し「高齢者の見守り」講座を実施した。講座終了直後に住民より安否確認で気になる方の相談があり理解を深めることができた。

○令和3年度の実態把握訪問件数は1093件であった。対象者リストによる訪問では、状況把握に努めると共に基本チェックリストの他、口腔ケアチェックシートも49件実施し、栄養摂取状況の確認など多角的な面から介護予防について啓発を行った。

○広報紙「あんすこ便り」を隔月に発行し、各町会自治会回覧板や掲示板の活用やクリニック、薬局、交番、金融機関、喫茶店等に配布を行っている。新たに、高齢者専用の民間マンションや銭湯に配架依頼を行い、見守りの連携依頼やあんしんすこやかセンターのPRに務めた。

## 2、権利擁護事業（・虐待・成年後見・消費者被害）

○令和3年度の虐待対応件数は12ケースであり、保健福祉課と連携して対応を行った。社会福祉協議会梅丘地区運営委員会や介護保険サービス事業者との会議において、虐待通報のパンフレットを配布し気になった時点で相談をいただけるよう働きかけた。

○いきいき講座を「あんしん事業って、なあに？」のテーマで実施し、成年後見制度の利用についても触れながら権利擁護について啓発を図った。

○多重債務相談研修や消費生活協力員養成講座に参加し、消費者被害の最新状況を把握した。伝達研修を行い所内で最新の被害状況を共有した。また、通報のあった個別ケースの相談を消費生活センターと行き、対応方法について所内で共有を図り今後の対応に生かせるようにした。

## 3、包括的・継続的ケアマネジメント（・ケアマネジャー支援）

○隣接するあんしんすこやかセンターと合同で、「梅松ケア会議」を3回実施した。地域ケア会議を必要とする利用者が増えていることを踏まえ、「地域ケア会議について」をテーマに講義と意見交換会をオンラインで実施した。また、北沢地域ケアマネスキル向上委員会に年10回参加し、3回の勉強会について共催として企画運営に携わった。

## 4、介護予防・日常生活支援総合事業（・介護予防ケアマネジメント・一般介護予防事業）

○筋力アップ教室には年間8件、専門職訪問では管理栄養士と理学療法士の訪問に1件ずつ利用につなげ、個々の状況に応じた介護予防の取り組み支援を行った。

○二次予防事業対象者の把握を行うために、年間190件の基本チェックリストを実施した。また、オーラルフレイルの予防啓発するために口腔ケアチェックシートを49件実施した。

○男性の体操グループの立上げに向けて「いきいき講座」として体操講座を4回シリーズで実施した。運動指導員には、男性ボランティアに依頼を行い、次年度の立上げを目指している。

○ZOOMアプリを活用し、オンラインでの体操の会「梅丘オンライン体操」を立ち上げ、月に2回実施した。参加者同士の交流と筋力アップを図った。

## 5、認知症ケア推進（認知症ケアの推進）

○もの忘れチェック相談会の対象者は3名、うち2名は経過観察、1名は要精密検査となり、主治医と連携し専門医の受診をすることができた。

○認知症初期集中支援チーム事業は6ケースのエントリーを行った。5ケースでは、介護保険サービスに繋ぐことができた。うち1ケースでは認知症啓発イベントであるRUN伴のたすき作りを一緒に行い、認知症当事者の方が生きがい創出の支援を行った。

○認知症カフェ「うめカフェ」を法人や住民ボランティア支援のもと、昨年度より月1回開催している。各回、同行者を含め7～8人程度の参加があり、認知症当事者がお茶出しや受付などのボランティアとして参加された。

## 6、あんしん見守り事業（見守り支援）

○拡大ミーティングで見守りフォローリストの更新を行い、今後の支援方針などの確認をおこなっている。

○職員・見守りボランティア合わせて延べ214件の見守り訪問を実施した。見守りボランティアと見守り対象者が良好な関係性を築くことができ、滞りなく状況把握ができた。

## 7、在宅医療・介護連携（在宅医療、介護連携の推進）

○在宅療養相談では月平均14件程度相談を受け付けた。新型コロナウイルス感染症に罹患した住民への対応やターミナル期や急性期の相談について、医療機関やケアマネジャーと連携し対応した。

○介護保険サービス事業者向けに医療講座を開催し、「緩和ケア・終末期の方への対応について」2回シリーズで講義と意見交換会を実施した。

○区民向け在宅療養講座として、「在宅での精神科診療との関り」をテーマに、精神科医、看護師、主任ケアマネジャーより講義を実施した。コロナ禍であり、会場とオンラインのハイブリット形式での講座を実施した。

## 8、地域ケア会議（地域ケア会議の実施）

○年間計画で会議A開催の時期や担当者を予定し、計画通りに年間で3件を実施した。実施後は所内で課題や計画した取組を共有し、はつらつ介護予防講座や専門職訪問、筋力アップ教室への利用につないだ。

○会議Bは年間に4件を実施した。共通した地区課題として、地域での見守りや関係機関とのつながり、相談窓口としてのあんしんすこやかセンターへの通報や相談の周知についてが挙げられた。取り組みとして、「高齢者の見守り」の講座の中で、見守りのポイントやあんしんすこやかセンターへの通報について周知を図った。

## 9、地区包括ケアの地区展開（福祉の相談窓口）

（身近な地区における相談支援の充実・参加と協働による地域づくりの推進）

○三者連携会議や週に1回の三者打ち合わせ会議において、地区課題と思われる事例を共有し、それぞれの立場からの対応方法など意見交換を行っている。

○コロナ禍により運動の機会や交流が減少している課題を三者で共有した。スマートフォンのアプリを利用しつながりを保てるように、地域の体操グループや自治会に働きかけ、スマートフォンの活用講座を年2回実施した。

# 令和3年度 事業報告

祖師谷あんしんすこやかセンター

## 1、総合相談（・相談対応・ネットワークの構築・実態把握・PR）

○相談件数は来所、電話、訪問等を含め、9686件であった。相談内容は毎日のミーティングで共有しインテークやアセスメント、対応に不足がないか確認した。

○実態把握訪問件数は2856件（目標件数900件以上）であった。区の年齢別対象者リストに基づく訪問や、あんしんすこやかセンターで作成している継続支援リストのモニタリング訪問、近隣住民や民生委員から相談があった方の訪問、団地訪問、新規訪問等を行った。

○広報誌を隔月で、町会・自治会・図書館・クリニック・薬局・郵便局等約43カ所に配布した他、法人のホームページ、社会福祉協議会のメルマガに掲載した。

○地区のネットワーク作りについては、町会・自治会の会議、地区社会福祉協議会運営委員会、民生児童委員協議会への参加と医療機関・商店街を訪問しPRを行った。銭湯や新規開設した介護事業所やワーク&プレイスに訪問しPRを行った。

## 2、権利擁護事業（・虐待・成年後見・消費者被害）

○高齢者虐待については家族や近隣住民、ケアマネジャーからの相談が34件あった。速やかに保健福祉課に連絡し、連携対応に努めた。民生委員児童委員協議会、町会・自治会長会議で啓発を行った。

○成年後見制度や地域権利擁護事業については、相談件数は117件あった。成年後見センター・保健福祉課、ケアマネジャーと連携を取りながら対応し、成年後見制度に3名、地域権利擁護事業に2名繋いだ。

○消費者被害防止については、相談件数は31件であった。消費生活センターと連携して対応した他、特殊詐欺対策用自動通話録音機を案内して被害防止に努めた。窓口やサロン等で成城防犯新聞や安心・安全ステッカー等を配布し、消費者被害防止のPRをした。

## 3、包括的・継続的ケアマネジメント（・ケアマネジャー支援）

○事例検討会や地区包括ケア会議を通して、地域の医療機関、介護サービス事業所、民生委員、障害者施設等の多職種・多機関との連携を図った。

○地区内の主任ケアマネジャーと毎月連絡会を開催し、地区の課題や事例検討会等について検討した。地区では事例検討会を2回、社会資源の勉強会を1回、医療ケースカンファレンスを1回、成年後見制度と地域権利擁護事業の勉強会を各1回、医療講座を1回開催した。

砧地域合同でACPをテーマに医療と介護の連携会議と、「セルフネグレクトのある方への対応」をテーマに研修を開催し、地域のケアマネジャー等のケアマネジメント支援とケアマネジャーや介護サービス事業所、関係機関とのネットワーク構築を図った。

○ケアマネジャーから相談は592件であった。困難ケース等は、助言や同行訪問、他機関と連携する等して支援した。

## 4、介護予防・日常生活支援総合事業（・介護予防ケアマネジメント・一般介護予防事業）

○自立した生活を送れるよう、適切なケアマネジメントの実施に努め、サロンや自主グループ等、地域の多様な社会資源を含めたサービスにつないだ。

○はつらつ介護予防講座、いきいき講座、実態把握訪問や来所された方に、基本チェックリストを271件実施し、介護予防事業対象者を把握し筋力アップ教室（17名）や、総合事業等の適切なサービスにつないだ。

○普及啓発講座として、はつらつ介護予防講座を19回開催し、体力測定を実施した。いきいき講座で介護予防体操、健康講座・体力測定、エンディングノート（終活）を各1回実施した。

○窓口相談、実態把握やサロン訪問時に健康長寿ガイドブック、介護予防手帳、ストレッチのちらしを配布して介護予防の普及啓発に努めた。

○住民主体の自主グループ立ち上げ支援を実施し、自治会の協力を得て11月にスタートした。

#### 5、認知症ケア推進（認知症ケアの推進）

○窓口で認知症について相談があった場合は、認知症ケアパスを活用しながら対応した。

○個別相談については、認知症専門相談員を中心に、認知症初期集中支援チーム事業にて世田谷区認知症在宅生活サポートセンターと連携し、医療機関や介護保険サービス事業者につないでいる。

○家族介護者支援として、家族会を4回開催した。

○認知症カフェを月1回開催した。介護サービスにつながない社会交流の機会が少ない認知症高齢者が参加した。地区内の認知症カフェに参加し活動状況を把握した。

○広報誌でもの忘れ相談窓口・家族会のPRをした。

○「世田谷区認知症とともに生きる希望計画」について3者連携会議で取り組みについて検討した。実態把握やサロン訪問時に「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」のパンフレットを配布し普及啓発を行った。

#### 6、あんしん見守り事業（見守り支援）

○町会自治会長会議、民生児童委員協議会、サロンや医療機関、商店街等に訪問して見守りちらしやあんすこパンフレットを配布して見守りを依頼した。

○見守りコーディネーターが中心となって7名のボランティアが活動し、9名の対象者に訪問した。新規に登録したボランティア2名が5名の対象者に訪問活動を開始した。

○あんすこ職員が98件の見守り訪問を実施した。

#### 7、在宅医療・介護連携（在宅医療、介護連携の推進）

○窓口や訪問で在宅療養相談は延べ626件であった。「世田谷区在宅療養資源マップ」等の地域資源を活用して情報提供や入退院・転院の支援、ワクチン接種の情報提供など支援を行った。

○地区連携医、主任ケアマネジャーと協働で、医療ケースカンファレンスや多職種事例検討会等を7回と、区民向け講座「COVID-19とともに生きる」を開催した。砧地域合同でACPをテーマに医療と福祉連携懇談会を開催し、在宅医療の普及、医療と介護の連携に努めた。

#### 8、地域ケア会議（地域ケア会議の実施）

○地域ケア会議Aを3回開催した。会議の内容と結果を所内で共有し、転入による地域での孤立と男性の居場所づくりという課題について検討し、男性の居場所や気軽に参加出来る体操の会をつくることとした。

○地域ケア会議Bを「8050世帯」と「身寄りのない高齢者」「デジタル活用」をテーマに開催し、個別事例の検討、ケアマネジメント力の向上、支援ネットワーク強化と地区課題の把

握を行った。課題への取り組みとして、8050世帯の相談窓口の周知、ACPの普及啓発、広報活動の実施とACPの勉強会と終活講座の開催を行った。デジタル活用については来年度スマホ講座を開催する。

#### 9、地区包括ケアの地区展開（福祉の相談窓口）

（身近な地区における相談支援の充実・参加と協働による地域づくりの推進）

○相談対象拡充の相談件数は181件あり、関係機関と連携して対応した。

○毎月1回の三者連携会議に複数名で参加し、地区課題の検討と新たな課題の共有、その課題解決のための社会資源開発の協働に努めた。

○「公社けやきの会」では継続して公社祖師谷住宅の課題について検討し、コロナ禍での運動サロン支援に取り組んだ。

○週1回まちづくりセンターの朝会に参加し、三者で情報共有を図った。



# 令和3年度 事業報告

成城あんしんすこやかセンター

## 1、総合相談

(・相談対応・ネットワークの構築・実態把握・PR)

○相談件数の合計は7,495件であった。うち訪問は1,964件、来所は955件、電話が3,400件であった。

○75歳以上の独居または高齢者のみ世帯を中心に508件の実態把握訪問を行った。

○地区社協運営会議、民生・児童委員協議会に毎回参加し関係強化に努めた。

○医療と福祉の連携を目指した砧地域ご近所フォーラムはオンラインでの開催も視野に毎月の準備を重ね、感染リスクを避けるため3月にオンラインで開催された。今回はユーチューブでの配信としたのでいつでも閲覧できる形となっている。

○主要なサロン4件を訪問し合計68人の方に介護予防、認知症サポーター養成講座、熱中症予防、感染症予防、消費者被害予防などを普及啓発し、併せてあんしんすこやかセンターのPRを行った。

○高齢者見守りの業種別パンフレットを4種類作成しマンション21件、商店街33件に配布し併せてあんしんすこやかセンターのPRを行った。

○成城自治会の広報紙に介護予防や健康に関する記事を寄稿し、併せてあんしんすこやかセンターのPRを行った。

## 2、権利擁護事業

(・虐待・成年後見・消費者被害)

○保健福祉課と連携し8件の虐待ケースに取り組んだ。

○あんすこ便り秋号で消費者被害防止を、冬号にて成年後見制度を普及啓発した。成年後見制度勧めるため成年後見センターと利用者家族の連絡調整を行い、1件のケースでは家族と成年後見センターとの相談に同伴した。あんしん事業に1名をつなげた。

○成城警察署生活安全課による高齢者向けの消費者被害防止のいきいき講座を行った。

## 3、包括的・継続的ケアマネジメント(・ケアマネジャー支援)

○地区連携医事業として地区のケアマネジャーを中心に事例検討会を2回、勉強会を2回、砧地域合同での研修会を1回行った。

○砧地域医療・福祉連携懇談会と砧地域のケアマネジャーを対象とした合同地区包括ケア会議をオンラインで行った。それぞれ「ACP」と「虐待」をテーマとした研修とグループワークを行った。

## 4、介護予防・日常生活支援総合事業

(・介護予防ケアマネジメント・一般介護予防事業)

○年間の予防給付プラン実施件数合計は854件、総合事業ケアマネジメント実施件数は879件であった。

○実態把握やいきいき講座を活用し基本チェックリストを329件行った。

○筋力アップ教室には14名を繋いだ。専門職訪問指導には1名を繋げた。

○年間4回、「フレイル予防」、「老人ホームの選び方」、「尿漏れ予防」、「消費者被害予防」のいきいき講座を行った。

○コロナ禍による集うことや会場確保の困難さを解消するためオンラインによる運動の場を企画し、8月より毎週1回開催した。3名の参加から始まり現在の登録者は8名である。

#### 5、認知症ケア推進（認知症ケアの推進）

○認知症初期集中事業に5名を選定した。

○NPO 法人語らいの家と共催で家族会を10回開催した。区主催の砧地域での認知症家族会に1回参加した。

○認知症サポーター養成講座は世田谷区の認知症とともに生きる希望条例に合わせたテキストが検討中で開催できなかった。その代わりにSSCK会議参加者らに向けた認知症の勉強会を12月に行い20名が参加された。

○地区のケアマネジャーへ向けてオンラインで若年性認知症に関する社会保障制度についての勉強会を行った。

#### 6、あんしん見守り事業（見守り支援）

○毎月見守り対象者の確認と検討を行いリストの更新をおこなった。対象者は31名、年間のべ295名であった。ボランティアによる見守り訪問は2名の対象者に対し年間のべ15回であった。

#### 7、在宅医療・介護連携（在宅医療、介護連携の推進）

○在宅医療相談を261件受けた。

○地区連携医事業を毎月行い、その中でケアマネジャーとの事例検討会を2回、勉強会を2回行った。

○低栄養予防に関する区民向けミニ講座を感染症予防のためオンラインで行った。

#### 8、地域ケア会議（地域ケア会議の実施）

○地域ケア会議Aを2回、地域ケア会議を3回行った。金銭管理や異動・転入してきた高齢者の地域デビュー、外国人の支援などについて検討した。会議の結果より成年後見センターの協力も仰ぎ都営団地での書類整理などの相談会を開くこととなった。また外国人の実態把握訪問を行う予定である。

#### 9、地区包括ケアの地区展開（福祉の相談窓口）

（身近な地区における相談支援の充実・参加と協働による地域づくりの推進）

○高齢者福祉以外の相談にも応じられるよう相談拡充に関する分野のオンライン研修にも積極的に参加し、従来事業に関する研修のべ44回、相談拡充の研修のべ20回受講した。

○前年に引き続き三者連携にて地域課題を解決するための2つの協議体活動を推進した。SSCK会議においては男性の居場所づくりを、8989ネットワーク会議においては都営団地を中心とした地域の見守りについて検討した。SSCK会議では男性の方に認知症の理解を深めてもらうことを検討し8989ネットワークでは松沢病院看護師との相談会を3回開催した。その際にあんしんすこやかセンターの出張相談も2回開催しそれぞれ3名、合計6名の相談を受けた。なお3月にオンラインで行われた砧地域ご近所フォーラムでは成城地域からは8989ネットワークの活動を紹介した。

## 令和3年度 事業報告

喜多見あんしんすこやかセンター

### 1、総合相談（・相談対応・ネットワークの構築・実態把握・PR）

○相談対応は7539件（来所1077件、電話2903件）あった。相談の内容を整理しながら、必要に応じて関係機関へのつなぎを行った。実態把握訪問は1276件で、世田谷区からのリストだけでなく、喜多見管内に越してきた方を中心に訪問した。あんしんすこやかセンターのPRの他、必要に応じて介護保険などのサービスへつないだ。

○ネットワークの構築として、商店や銀行など60件、薬局など医療関係へ32件あいさつ回りにいき、あんすこ便りなどを置かせていただいた。その他、清掃局や保健所など会議を通してネットワークを構築し、個別のケースの相談に応じてもらえる関係づくりができています。

○新型コロナのワクチン接種の関係で昨年度はあんしんすこやかセンターが入っている建物への来館者が多かったため、まちづくりセンターや社会福祉協議会と協力して、消費生活センターからの啓発物品と共に、あんすこ便りやパンフレットなど様々なチラシをまとめたセットを配布し普段関わりの薄い区民への周知を行った。また、建物の前に出店しているキッチンカーへ「物忘れが気になったらあんしんすこやかセンターへ」など一言加えたシール付きのあんすこティッシュを置かせてもらった。

○あんすこ便りは隔月で年間6回発行した。詐欺などの消費者被害防止や熱中症予防、フレイル予防など様々な記事を掲載した。

### 2、権利擁護事業（・虐待・成年後見・消費者被害）

○昨年度は7件の虐待対応ケースがあり、ケアマネジャーや保険福祉課と連携しながら対応に当たった。また、民生委員にパンフレットを用いて虐待防止の説明をした他、ケアマネジャーへ「ネグレクトの対応」として砧地域合同で研修を行った。

○成年後見制度の利用に向けて連絡調整を行い1件利用開始となった他、地域権利擁護事業へのつなぎも行った。現在も3件利用に向けて調整を行っている。後見制度の知識向上のため、研修会に参加した他、ケアマネジャー向けの研修も行った。あんしんすこやかセンターだけでは困難なケースは保健福祉課とも連携ながら対応している。

○消費生活センターからの啓発物品を使用して啓発活動を行った他、警察や郵便局の協力をいただき、まちづくりセンターと共催で区民向けの特殊詐欺防止のいきいき講座を実施した。また、ケアマネジャーから相談があった消費者被害の可能性のある方について警察と協力し未然に防ぐことができた。

### 3、包括的・継続的ケアマネジメント（・ケアマネジャー支援）

○地区連携事業を中心に事例検討会1回、医療講座2回開催した他、地域ケア会議で出された課題の取組として、地域振興課などを講師に呼び水害時の避難に関する研修を行った。また、ケアマネジャーがインフォーマルサービスや社会資源の情報を得られるよう、地域の情報をまとめ閲覧できるようにした。

### 4、介護予防・日常生活支援総合事業（・介護予防ケアマネジメント・一般介護予防事業）

○介護予防ケアマネジメントの延べ件数はA768件、B21件（筋力アップ7件、支え合いサ

ービス6件) 予防給付1063件だった。コロナの感染状況が増えると利用に消極的な人もいた一方で、体力低下から運動型のデイサービスを希望する利用者も増えた。専門職訪問の利用も理学療法士を中心に4件あった。

○基本チェックリストは実態把握訪問や窓口、サロンへの訪問時など245件実施した。

○はつらつ介護予防講座は定員を抑えて開催した。いきいき講座は転倒予防教室や体力測定など2回実施した。1回は地域のプロラグビーチームブラックラムズ東京にも協力をしていただいた。

#### 5、認知症ケア推進（認知症ケアの推進）

○専門医の相談やもの忘れチェック相談会を実施した。特に初期集中支援チーム事業はサービスにつながらないケースを中心に5事例実施し、専門職の助言を受け適切な医療やサービスにつなぐことができた、

○認知症の家族支援として行っている喜多見介護者の会は5回を予定していたが、人数が集まらず4回の開催になった。

○認知症希望条例の普及啓発として、社会福祉協議会と共催で懇話会を開催した他、地域住民へパンフレットの配布を行った。

#### 6、あんしん見守り事業（見守り支援）

○あんしん見守り事業ではボランティアによる見守りを3件実施。毎月の状況確認を行っている。また、毎月全員で状況確認や見守りリストの更新を行い、今後の支援方針などの確認を行っている。

#### 7、在宅医療・介護連携（在宅医療、介護連携の推進）

○在宅での医療に関する相談は670件あった。

○多職種の連携会議としてACPについて、地域で1回、喜多見地区で1回行い、医師・歯科医師・薬剤師などの医療職とケアマネジャーやヘルパーなどの介護職の連携を強化した。

#### 8、地域ケア会議（地域ケア会議の実施）

○自立支援を中心とした地域ケア会議Aは3件実施した。2事例は難病の方への支援として実施し、難病の支援策を学ぶきっかけにもなった。

○地域ケア会議Bは、地区の中でよく起こっているケースを中心に3件検討した。ゴミ部屋の支援では清掃局の方にお越しいただき、ゴミ収集について知識を深めることができた。その他、水害時の支援策についても協議を行った。

#### 9、地区包括ケアの地区展開（福祉の相談窓口）

（身近な地区における相談支援の充実・参加と協働による地域づくりの推進）

○高齢者だけでなく、障害などの相談は57件あった。関係機関へのつなぎで終了するケースもあるが、高齢者との同居などは関係機関につないだ後も連携して関わっているケースもある。

○昨年度からまちづくりセンター、社会福祉協議会に児童館も加わり四者として会議を開催している。喜多見の課題である買い物支援については継続的に関わっている。その他、喜多見ファミリーデーとして子供向けのイベントを行ったり、講座を共催で開催するなど連携をとっている。